

あ
と
が
き

5億年以上も前から絶えることなく繁栄し続けている植物。

植物の根は一般的に知られている栄養や水分を吸収するという側面以外にも、個々の根同士が菌糸体を媒介としてお互いにコミュニケーションを取り合っている事が、最近の研究で明らかになった。

たとえば青い葉を大きく広げ夏にたくさんの光を浴びて光合成をする広葉樹。冬の間は日照時間や雪の問題で葉を付けていても十分に太陽光を得ることができず生産することを諦め、春に向けてできるだけ傷を作らないようにしてやり過ごそうとしていると考えられてきた。しかし全ての広葉樹がただ大人しく冬をやりすごしているわけではない。広葉樹の木と針葉樹の木が混生しているような森では、冬の太陽光の少ない時期には針葉樹が光合成を行い広葉樹への栄養を補給しているという。かわりに太陽光の多い夏の時期は、根のネットワーク上で菌糸を媒介として広葉樹から針葉樹に栄養を補給しているというのだ。個々で生存していると思われていた植物達。実は、全く別の種同士までもが地下では深く繋がり、共に助け合って生きている。

ロシアのウクライナ侵攻からちょうど一年が過ぎた。

世界各国上空を飛んでいる気球は中国の偵察用という声もある。

北朝鮮からはICBMをはじめとしたミサイル発射が続いている。

我々人類は浅い歴史の中で何度同じ過ちを繰り返せば気づくのだろうか。

二年前に亡くなられた故立花隆氏を特集したNHK番組があった。「見えた 何が永遠が」この番組の題名に強く引き寄せられた。なぜなら、私が13歳のとき初めて触れたアルテュール・ランボウの詩が題名となっていたからだ。立花氏といえば1974年田中角栄金脈を徹底的に取材し、退陣に追い込んだジャーナリストとして有名だが、それは彼の人生の無駄な時間でしかなかったのだ。彼が求めていたものは「人間はどこから来て今何処へ行こうとしているのか」という哲学の追求であった。彼の模索は境界の探究から始まる。ヒトとサルとの境界、宇宙と地球の境界、生と死の境界。

南米アマゾンのインディオの中で1ヶ月間生活をしたり、エーゲ海を8,000km旅して古代遺跡を巡ったり、シベリア抑留の現地に行ってトラック輸送や木の伐採を体験したり、フランスの城を買とりワイン造りを体験したり、臨死体験者数百人に実際に会って話を聞いてリスト作りをしたり、分子生物学の理解のため何回となく利根川進先生に教えを乞うたり、ホスピスで死期のせまる患者に今の気持ちをつつこんで聞いたり、自らも患った膀胱癌の内視鏡的手術を意識下に観察したり、その全てが映像で残されていた。挙句に言った言葉は、『我々は長い歴史の中で、人生は一瞬でヒトは知識、知性の集積を組込めるから進化があり、「いのちの連環体」を築け「いのちの連続性」を保ち、その集積が超進化を生む。』

専門性の細分化は個々で形成できるが、それを総合的に評価し正しい超進化に結びつけることはどんどん難しくなっている。体験するだけでなく彼は10万冊とも20万冊とも言われる書籍を購入し、それを実際に読み、その蔵書を守るために多大な借金をして猫ビルを建て、書に埋もれて暮らした。しかも彼が死を宣告された2020年、『延命はしない。癌細胞は半分自分で半分エイリアンである。』自分をターゲットとする免疫細胞(T cell)さえも増殖の手段とするとまで言い切るほどの知識量で、『癌には負けるかもしれないが人生には勝つ』と講演で言い切っている。そして一年後2021年4月に亡くなられた。遺族への遺言は、『私の体はゴミとして捨ててくれ、蔵書は全て古本屋へ売ってくれ』だったそうだ。

私の未熟な文章では伝わらないかもしれないが、彼は真の知の巨人である。

頭をよぎる

「やっとみつけたよ 何を？ 永遠というもの 海に沈む太陽のことさ」

(編集委員 後藤 正幸)

あ
と
が
き

近年、医療機関をねらったサイバー攻撃が急増しており、2021年10月につるぎ町立半田病院、2022年10月には大阪府立病院機構大阪急性期・総合医療センターがサイバー攻撃を受けた事例などが報道されるようになっていきます。代表的なサイバー攻撃の手口として、標的型攻撃・ランサムウェア・DDoS攻撃・パスワードリスト攻撃などがあり、半田病院と大阪急性期・総合医療センターは、どちらもVPNのソフトウェアが旧式だったことから脆弱性を突かれ、ウイルスの侵入を許したとみられています。

ランサムウェアは単独で感染するのではなく、事前にエモテット（悪意のある攻撃者によって送られる不正なメールから感染が拡大しているマルウェア）等の標的型攻撃によって実在する人物になりすまし、ランサムウェアを添付して感染させるような仕組みが使用されます。また、不正な行為によって得られた個人情報はダークウェブ等の闇市場によって情報が売買される可能性があります。

このようなサイバー攻撃を防ぐためにはサイバーセキュリティ対策が必要であり、万が一に備えサイバー保険の加入も検討する必要があると思われます。具体的なセキュリティ対策としては、統合型ゲートウェイセキュリティやファイアウォールを導入し、セキュリティゾーンを確保（外部から入ってくる通信を制御、遮断）することで、仮にサイバー攻撃を受けたとしても情報漏えいやウイルス感染を防ぐ方法等があります。常時、データのバックアップをとることも重要と思われます。

損保ジャパン(株)のサイバー保険は、診療所の場合、年間91,010円（告知なし）もしくは63,710円（告知あり）の保険料で、賠償責任が2億円まで、事故発生時の各種対応費用が2千万円まで補償されます。また、サイバー保険に加入している場合は、SOMPO CYBER SECURITYが提供する以下の緊急時サポートサービスが受けられます。

- | | |
|-----------------|---------------|
| (1) 調査・応急対応支援機能 | (2) 緊急時広報支援機能 |
| (3) コールセンター支援機能 | (4) 信頼回復支援機能 |
| (5) GDPR対応支援機能 | |

一方、サイバー保険に加入していない場合は、令和4年6月1日より開始された日本医師会サイバーセキュリティ支援制度を活用することができます。対象は保険に加入していない日本医師会A①会員の医療機関となります。

支援内容は以下の3つです。

- (1) 日本医師会サイバーセキュリティ対応相談窓口（緊急相談窓口）
- (2) セキュリティ対策強化に向けた無料サイト（Tokio Cyber Port）の活用
- (3) 日本医師会サイバー攻撃一次支援金・個人情報漏えい一次支援金制度

サイバー攻撃を受けた場合やサイバー攻撃にて個人情報が漏えいした場合に10万円、また1日休業した場合に+5万円の一次支援金が支払われます。（年1回のみ）

ただし、サイバー攻撃により発生した損害賠償責任や費用損害に関する補償等を提供する保険ではございませんので、ご注意ください。

もしご興味がある方は、会員福祉課までご連絡頂ければと思います。

（編集委員 帆秋 伸彦）

あ
と
が
き

診療所にAIがやってきた

明けましておめでとうございます。

2023年が始まりました。今年はどうな年になるのでしょうか？

コロナ禍はどこまで続くのか？そろそろ感染を気にせず生活を楽しみたいです。

ロシアのウクライナ侵攻はどうなるのか？

4月には統一地方選挙があります。県知事、市長は誰がなりどのような方向へ進むのか？

また過去を振り返ると予想もしない大きなこと新型コロナウイルス、地震そして戦争などが起こるかもしれません。考えてもきりが無い。自分のできることを懸命にするしかないのですが。

昨年大分県医師会は九州医師会医学会、九州医師会連合会各種協議会を大分で主催しました。松本日本医師会会長、広瀬県知事、佐藤大分市長をお招きし河野会長のもと成功裡に終わりました。たくさんの方々のお力添えを頂きありがとうございました。2月に2回目の各種協議会が終われば肩の荷を下ろすこととなります。もう少しです。

わが診療所の最近のトピックはなんといってもAI（人工知能）を導入したことです。私の診療所は無床の小さな診療所ですが大腸内視鏡を細々とやっています。そこに診断支援システムとしてそんなに高価でないAIを導入したのです。大腸ポリープを見つけると「ピンポーン」となり知らせてくれてポリープの診断をしてくれます。これまでAIなど遠い出来事で考えもしませんでした。私の時代にAIが導入できるのも一興と思い購入しました。使ってみると個人的にはまだまだ誤作動が多く診断も不安定でまだ実用レベルには数年が必要かなと思います。ところで購入後最初に一番喜んだのは看護師たちで中には「ピンポーン」とAIの真似をしてくれるものもありました。しかし3か月もすればもう当然のように使い目新しさもないようです。私はと言うと密かにAIに負けないようにポリープを見逃さぬよう競っています。負けてたまるか。こう思うだけでも効果があったかも。

(編集委員 谷村 秀行)

あ
と
が
き

粉末ジュースの素

子供の頃に粉末ジュースの素があった。水で溶かすとオレンジジュースやメロンジュースが出来上がるというものだ。しかし今でこそジュースと呼べるのは果汁100%のみと定められているので、そもそも果汁なんてこれっぽっちも入っていない飲物はただの清涼飲料水ということになる。さらに当時の粉末ジュースの素の甘みは人工甘味料がほとんどだったので、しばらくして有害な人工甘味料（正しくは合成甘味料）を含む食品の粉末ジュースの素はほぼ絶滅した。

ところで有害とされた代表的な甘味料はチクロやズルチンなどが挙げられ、その後使用禁止となったが、昔からあったサッカリン（サッカリンナトリウム）は現在でも使用されている。昔は人工甘味料といえば高価な砂糖の代替品として使用されるので、これを使った菓子は安物というイメージであった。だから頂き物のケーキが人工甘味料の妙な甘みの後口があると、私は生意気にも「これは安物のケーキで美味しくない」とほとんど食べようとしなかった。しかし件の粉末ジュースはありがたがって飲んでいたので、私の舌はその程度なのだろう。

砂糖の代替品であった人工甘味料だが、最近の食生活の変化により使用の目的が低カロリー、虫歯予防に変化しており、評価が変わっている。前に述べた安物の甘味料というイメージのサッカリンナトリウムは歯磨きやうがい薬の矯味薬として現在もしぶとく生き残っている。さらにアスパルテムやネオテムのような化学合成甘味料から天然由来のステビアや羅漢糖など多くの甘味料が開発されている。今や人工甘味料は安全性も確保され健康のために使用される添加物の一つとなった。

さて今、国、特に財務側の役人は医療費を無駄に引き上げている元凶が地域で患者をたらい回ししている中小病院や開業医であるという考えのようだ。だから無駄な重複診療を防ぐためのゲートキーパーとしてかかりつけ医を定め、それに患者を割り付けて制度化しようとする目論見が進みつつある。これに対して日本医師会は患者が医療を自由に選べる権利を阻害するものであり、制度化はむしろ医療費削減には無効であると断固反対の立場だ。有害で忌避されていた人工甘味料が再評価され復権したように医療側も日本の医療制度の有用性を主張すべき時にある。

（副編集委員長 吉賀 攝）

あ
と
が
き

“説三道四”（根拠のない適当なことを言うこと）

ロシアがウクライナを侵略し始めて、8か月が経ちます。国際法上、2国間の宣戦布告がないため、正規の戦争とは呼ばれていません。しかし、突然、他国に戦車で侵入して領土を奪い、他国民の命を白昼に多数奪い、その強盗行為にウクライナの国民が武力で抵抗すれば、これは客観的に侵略（戦争）と言えます。これを、侵略者側のロシアの指導者プーチンは“特別軍事作戦”なる何とも奇妙な言葉に言い換えて残虐行為を正当化しています。

ここまでは言わば海の向こうの他国で生じた問題でした。しかし、わが国にも同様の問題が急激に膨らんできました。付け焼き刃ながら吉賀常任理事のご指導を仰ぎ私なりに現状をまとめてみました。オンライン資格顔認証システムの“原則義務化”の言葉の解釈の時間的な変化に触れます。4年前、国はマイナンバーカードは保険証の代用にはしないと記者会見で明言しました。その後、新型コロナウイルス感染症大流行の波に国民全体、特に医療界はそれぞれの立場で大きな負担と義務を負って2年間半を乗り切ってきました。その間なぜか、オンライン資格確認制度導入の当局は、早急な導入に専念しており、本年5月25日の“閣議決定”を振りかざし、いまだ国民の約50%強しか所持していないマイナンバーカードの医療機関へのオンライン資格確認導入に罰則規定まで言及し始めています。

私自身は、原則、医療制度へのDX化には賛意を持っています。ただ、なぜ“あと6か月以内”に義務化される必要性の説明がはっきりなされていないことに大きな疑問を持っています。乗り遅れると補助金がなくなる、新規導入の器械が不足し間に合わなくなる、など不安感と損失の心配が各医療機関や医師会にまん延し始めました。よくよく調査するとNTT光ファイバー網が導入されていない医療機関は特別な経費を自弁しなければならないとのことです。30%の地域はこのインフラ整備が進んでいないため、導入がほとんど不可能な現状だそうです。日本医師会も原則導入賛成の方針を打ち出しました。もちろん、私自身も方針に従う意思をもっています。ここで日医が責任をもって実行すべきことは、全国津々浦々まで詳細な調査を進め、実際に導入が努力すれば全医療機関で可能か否かを明確にし、行政と綿密に交渉していただきたいと思います。今の時代、官僚は“お上”ではありません。立派な法治国家である以上、Public servantは徹底した説明義務の責任を厳守すべきです。早く、医療行為に専念できる環境整備に関係者全体が同一方向を向いて欲しいと願うばかりです。

（副会長 植山 茂宏）

あ
と
が
き

3年ぶりに地元の祭りの「浜の市」が開催された。花火大会なし、期間短縮の開催だったが、狭い境内にたくさんの人が地域での人の営みを懐しむように、集まっていた。ゆったり、のんびり華やかに、日常の中の催事を楽しんでいた。

伝えてきた古くからある「祭り」を、孫や子と家族、友人と楽しんでいた。マスクが少しずつ取れていって、もっと全部の表情を早く見る事ができたらと思った。

子供の頃から「浜の市」は身近で、亡くなった父も娘達と孫達とお祭りに行くのが大好きだった。

「浜の市」が来るとすぐ「お正月」という感覚が皆にあり、さらに私は「浜の市」の間に誕生日を迎えるので、確実に1年を積み上げるお祭りであった。

道路を渡った川沿いに見世物小屋や陶器市があった華やかな頃からするとやや淋しい規模になってきていたが、近年はフェリー乗り場の移動で海の公園での花火大会が好評でエスニック屋台が何台も出て盛り上がりを見せていた頃のコロナ禍。

近所の老舗のケーキ屋さんが疲れからか、名物の「志きし餅」の販売をやめて親族へ配る事ができなくなっていた時である。コロナ以降、身体になじんでいた行事、親睦の場がなくなり、年を重ねる実感が希薄となってきた。母親とも、ほんの何度しかここ2年会っていない。

しかし、少しずつではあるが、会食の機会が増え、街の中の活気や小旅行も増えてきている。マスク、手洗い、ソーシャルディスタンスの中での人の生活らしさが戻りつつある。

地域、学校、職場で感染対策を担ってきた人々の恒常的な努力が、そして、前月号のあとがきにあったように、発熱外来などで最前線で闘ってきた医療関係の人々の努力がそれを可能にしてきたのだと感慨深く、感謝の気持ちでいっぱいです。

(編集委員長 貞永 明美)

あ
と
が
き

6月末から約2ヶ月続いた猛暑がやっと終わり、朝晩の涼風に乗って虫の音が聞こえはじめました。

新型コロナウイルス感染症の第7波は家族内感染、小児感染の拡がりを見せ、大きな母数の感染者を生んでいます。皆様方には大変な時期を迎え、日々の生活、仕事の難しさを痛感されていると考えます。まことにお疲れ様です。

さて、この話をすると一般の人達から約9割5分の人が、この人は何を言っているのと思われ、我々医学を学んだ人間でも6～7割の人からは受け入れられないかもしれませんが、自己と外界の境はどこでしょうか。個体と外界の境は、例えば人間で言うと皮膚と外気です。では胃の内部の空間、腸内部の空間、肺の内部の空間、もっと言うと尿管、膀胱、尿道の内部の空間。これは厳密に言うと体内にありながら外界なのです。その境を生物は皮膚の代わりに粘膜で形成しています。口腔粘膜、気管粘膜、細気管支粘膜、肺胞粘膜、食道粘膜、胃粘膜、十二指腸粘膜、小腸粘膜、大腸粘膜、肛門粘膜、尿管粘膜、膀胱粘膜、尿道粘膜。人間は体内にある外界をかかえて生きています。何故このような話をしたかと言うと、ロシアのウラジミール・プーチン氏はこのことを理解していません。もしくは理解しているけど、わざと知らん振りを決め込んでいます。奇しくも旧ソビエト連邦を解体し、後にノーベル平和賞を授与されたミハイル・ゴルバチョフ氏が8月30日91歳の生涯を閉じました。プーチン氏はこの旧ソビエト連邦の中の地域は全て自国だと考えています。彼はグルジア（現在のジョージア）侵攻を手始めにクリミア半島、そして今回のウクライナ侵攻とロシアに友好的でない土地を口実と嘘のプロパガンダで着々と攻撃し取り戻そうとしています。それぞれ独立した地域、国家であるのでロシアから見ると外界であるにも関わらず。この影響でドイツは確実に液化天然ガスに困り電力がひっ迫し、アメリカはインフレーションを危惧して、FRB議長は利上げを続行し、利上げを行わない日本は円安に追い込まれ、世界は大きく動いています。

新型コロナウイルス感染症の第7波はこの猛暑の日本で爆発的に感染者数を増やして、ガレージで発熱外来を行っている私は1日に20～30人の外での診察と通常診療に駆けずり回り、昼休みも昼食も抜きの状態が2ヶ月近く続いています。

先日の夕方、スタッフの一人がドーナツとシュークリームを差し入れてくれました。

「甘いものでも食べてがんばってください。」

患者さんも、「夏野菜の酢漬けを作ってきたから頑張る。」

「どんこを煮てきたから食べて元気をつけて下さい。」

ある人は、栄養剤や缶コーヒーを差し入れてくださいます。

たしかに暑いし、忙しいし、つらい日々ですが周りの温かい皆様の心遣いに幸せを感じています。この幸せをプーチン氏にも感じさせてあげたいなと思った夏です。

(編集委員 後藤 正幸)

あ と が き

少子化のために人手不足が深刻化して、医療の現場においてタスクシェアやタスクシフトなど専門職の限られたマンパワーを維持するような対策が急務ではありますが、一方ではICTやAIを活用し業務の効率化を図ることが必要とされており、今後、限られたマンパワーを対人への職種に選択と集中していくことが重要と考えられます。

内閣官房の成長戦略ポータルサイトにて記載されている次世代ヘルスケアの今後の取り組みの中にも、「健康・医療・介護サービス提供の基盤となるデータ利活用の推進」、「ICT、ロボット、AI等の医療・介護現場での技術活用の促進」が掲げられています。また、2017年度には厚生労働省内に「データヘルス改革推進本部」が設置され、2021年9月にはデジタル庁が設置されるなど、国としてもデジタル社会の実現に向けた動きが進められています。

医療の現場においては、電子カルテやレセコンに加えて、ICT等を用いたオンライン診療や遠隔診療、マイナンバーカードを利用したオンライン資格確認、オンラインによる予約システム、受付・決済の自動化、RPA（Robotic Process Automation＝PC上での定型業務をソフトウェアロボットが代行すること）、AIやBig Dataの活用などが進められています。

その様な医療分野でのDX（Digital Transformation＝デジタル変革）推進の機運の中で、2021年10月に徳島県つるぎ町立半田病院がランサムウェアに感染した事例が報道されました。このような事例は氷山の一角と思われませんが、この事例が示すように、事前のサイバーセキュリティ対策に加えて、感染が判明した事後の対応についても十分検討し備えておく必要があります。

SOMPOリスクマネジメント社との共催で大分県医師会の会員福祉課では会員向けにサイバーリスクに関するWebセミナーを本年9月に計画していますので、ご活用頂けたらと思います。

（編集委員 帆秋 伸彦）

あ
と
が
き

紳士たれ！

6月になりますます焼けるような暑い日が続きます。皆さんどうお過ごしでしょうか？

大分県医師会は近藤先生が会長を勇退され、河野先生が新会長となり新たな河野会長新体制となりました。30年以上大分県医師会の役員として頑張ってこられた近藤先生には頭が下がる思いです。辞められるときの晴れ晴れとした笑顔にこれまでの重責を感じました。また藤本先生も20年以上役員を務めあげられ一緒に仕事ができ光栄でした。またいろいろな助言や手助けありがとうございました。新たなメンバーを迎え一致団結し河野新体制で頑張っていきます。まずは参議院選、九州医師会連合会の主幹と立ち向かわなければいけません。職員と協力し行っていきます。皆様のご協力お願い致します。

さてまた昔話です。私が県医師会の役員として最初のころのお話です。先輩の先生から頂いた言葉が「医師会の役員は紳士たれ！」です。これは今でも強く記憶しています。知性、教養、言動、立ち居振る舞いすべてのことだと思います。その先生は本当に紳士でした。ただそんなこと言われてもいきなりは無理でしょ。そう思ってやっていきなさいとのことでしょうが。勿論私にはそんなことは無理ですからまずはカッコから入りました。20年前のスーツは捨て、安いなりにも見栄えのするネイビーのスーツを購入しました。当たり前ですが行政のお役人との交渉や他業種の人たちと業界を代表して会うので身なりは重要です。それすら気が付かなかった自分でしたから。それまで誰からもビジネスマナーを教えてもらっていないですし注意もされませんでした。ある時はネイビーのスーツに白のスポーツソックスでパーティーに出席し、ある時は会場全体でネクタイをしていないのは私一人。その都度注意を受け初めて気が付きました。諸先輩方ありがとうございました。

ただ今でも失敗します。そこはご勘弁ください。

(編集委員 谷村 秀行)

あ と が き

少子化対策が進むことを期待する

2021年度の人口動態統計の速報値が厚生労働省から発表された。出生数は2020年度と比べて1.3%減の84万2,131人であり、14年連続で減少し過去最少を更新した。

政府は全世代型社会保障の実現を掲げて子育て支援を拡充させる方針を示している。

こども家庭庁の新設などを柱とした子ども政策の関連法案が5月17日に衆議院で可決し、18日には参議院で審議入りした。こども家庭庁に他省庁への勧告権を与え、首相直轄の「子ども政策推進会議」を創設する。関連法案は「こども家庭庁設置法案」「こども基本法案」などである。

残念ながら、日本の子育て支援は充実しているとはいいがたい。国内総生産（GDP）に占める家庭政策の給付割合は2019年度で約1.7%とのことである。イギリスやスウェーデンは3%を超え、フランスも2%台後半。どうしても我が国は見劣りしてしまう。

今夏の参議院選では、ぜひ社会保障について論議を深めてほしい。自見はなこ議員の上位再選を果たし、全世代型社会保障の実現と充実を期待する。

（副会長 藤本 保）

あ
と
が
き

ソースせんべい

ソースせんべいとは小麦粉，コーンスターチ，甘味料などを水に溶いて，厚さ約2mm，直径15cm程に薄くのばして焼いた菓子だ。かすかに甘くパリパリとした食感だが，これ自体特別美味しいものではないので子どもたちはこれに梅ジャムを塗って食べていた。この梅ジャムは昭和から平成にかけての子どもたちには駄菓子の定番で，この製造を単独で行っていたメーカー（梅の花本舗）が2017年に廃業したときには惜しむ人も多くニュースにもなったほどだ。このようにソースせんべいと梅ジャムというのは定番の組み合わせなのだが，私には印象が薄いのだ。

ソースせんべいといえばやはりソースなのだ。私の記憶ではお祭りなどの出店にあった「輪投げ」の残念賞であり，店のオジサンがソースせんべい一枚にソースをはけで一塗りしたものを渡していた。輪投げというのは，直径30cm程の輪を景品の乗った皿に掛けることが出来ればその景品を受け取れるというものだ。皿の上にはチョコレートなどの菓子や子どもたちの射幸心をあおるような様々な景品が乗っていた。しかし投げた輪が皿に完全にかからないとハズレと判定されてしまうので，多くの子どもたちはほとんど景品を取ることが出来ず残念賞のソースせんべいに甘んでいた。

残念賞のソースせんべいは乏しいお小遣いで一山当てよう（？）と輪投げに挑戦した結果なのだが，当然極めてコストパフォーマンスが悪かった。そもそも，輪投げの輪の大きさ，投げる距離，判定基準の厳しさからして景品が取れる可能性は極めて低いのは明白なのだが，私のような欲張りな少年は店のオジサンの絶好のカモであった。

さて，令和4年の診療報酬改定が行われたが，全体でプラス改定であったといわれているが実際はどうだろうか。数年来「絵に描いた餅改定」と揶揄されているが，今回も同じように表面上プラスにはなったが，算定要件などのハードルが高く実際には算定が困難な項目も多かった。新たな処方箋の制度など，医療機関には苦い薬を飲まされる結果となった。

今回の改定は医療機関には残念賞のソースせんべいになりそうなのだ。

（副編集委員長 吉賀 攝）

あ と が き

TVより流れる「戦争」という言葉を子供たちが耳にする。父親と引き離され泣く子供たちの姿を目にする。破壊された瓦礫の街を、爆撃を日常的にTVより目に耳にする。

コロナ禍で不自由な毎を送り、人々の集う楽しみ、季節ごとの祭り、イベント、暮らしの中の人の営みが薄らいでいく日々の中、それでもなお賢明に人間らしい暮らしを紡いできたある日、無差別に一般の人々が理不尽に命を奪われている。当たり前の日常生活が突然崩され住まいを離れることを余儀なくされている。

環境活動家で国連気候行動サミットで涙をためた目で怒りのスピーチをしたスウェーデンの16歳（当時）の少女はどんな思いだろう。

国際社会の共通目標、全世界の取り組みSDGsなど吹き飛ばす最悪の状況は他人事ではない。

世界大戦を経験した人類の人としての英知はどうしたのだろうか。

力と力の論理が広がらない様祈るばかり・・・

粛々と日々取り組むべきことに向き合いながら、4歳の孫がTVで爆撃された様子など映し出されるとずっと離れるようになった事を、母親として心配していた娘を思い、何ができるのだろうか考える毎日です。

（編集委員長 貞永 明美）